

# 金融機関と金融市場の競争度

RIETI 政策シンポジウム

2006年2月17日

筒井義郎

(大阪大学社会経済研究所)

# 高度成長期

規制：護送船団方式  
銀行：横並び行動



金融システムの  
安定性に寄与

効率性に問題



金融自由化

金利(価格)の自由化  
業務分野規制の緩和

金融業が競争的に変化



効率性の向上

# 高度成長期の問題点

# 所得移転

低金利政策 預金金利規制



巨額の所得移転が発生

預金者



銀行



企業

1961~65、  
1年あたり

5967億円

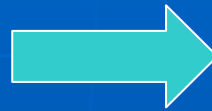
3423億円

銀行に2544億円とどまった!!

# 高度成長期の問題点

# 効率性

独占・寡占



高い価格  
多い利潤

デッドウェイトロス  
(社会の誰にとっても損失)

地銀・第2地銀、  
1975年～89年、  
貸出収入の1～3%にも

経営の非効率性

この報告では、これまで書いたいくつかの論文に基づいて、

銀行・証券・生保の競争の程度を比較

競争程度の改善の推移

自由化により金融機関は効率的になったか？

都銀(全国市場)はOK

地域金融機関の問題を指摘

低い競争度・高い金利



地域分断

# 競争の程度は、金融業によって違う

## 銀行業

Uchida - Tsutsui(2005)

1980年代半ばまでに競争度が向上

分析方法：寡占モデルの推定

競争度が、金融自由化の進展で説明できるか？

国債市場の発達とともに競争度が向上 

金利の自由化・業務分野規制緩和は説明力がない

# 証券業

Tsutsui - Kamesaka (2005)

1990年代前半には競争度が低下。  
後半でも、「独占的競争」

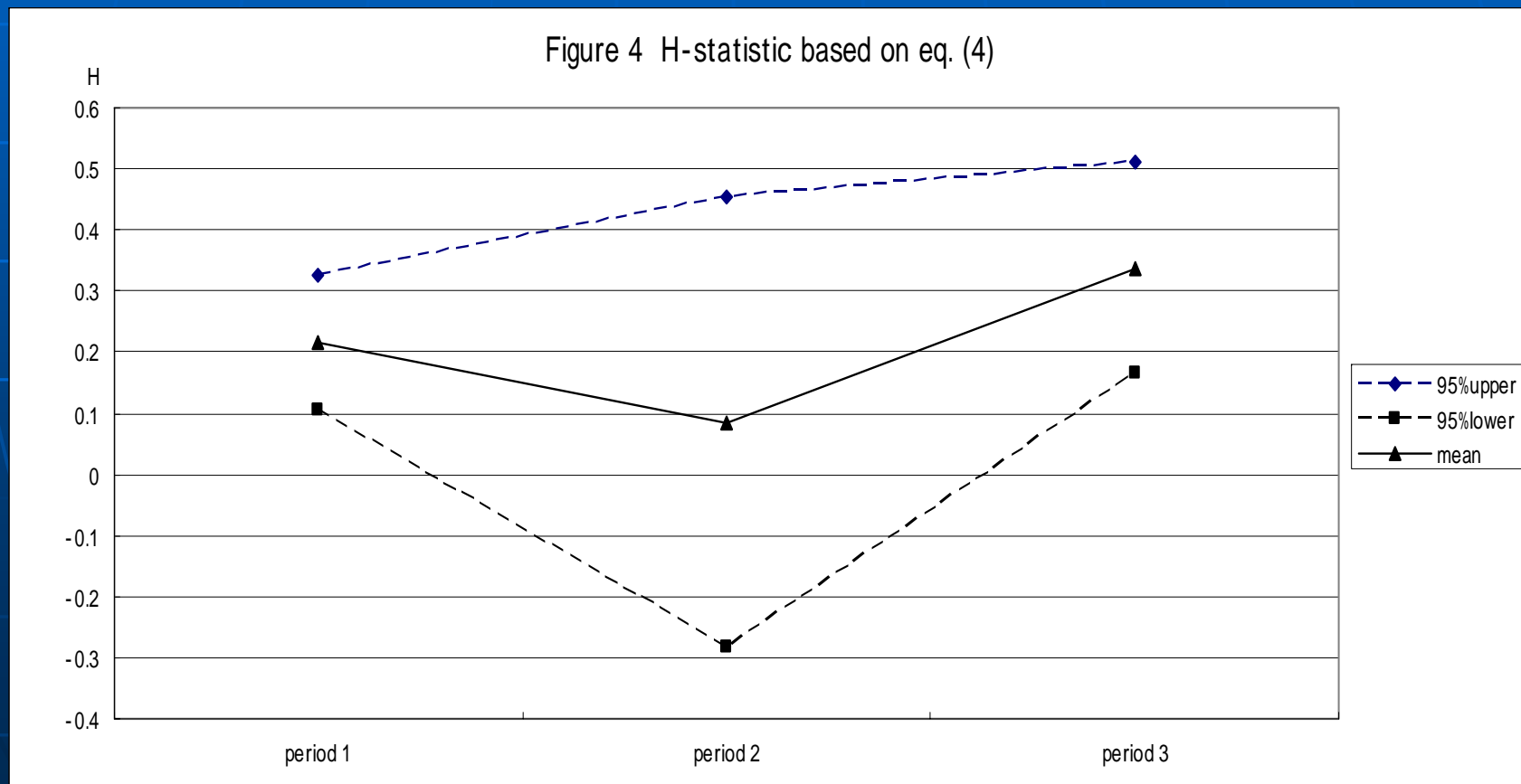
## 分析方法

Panzar-RosseのH統計量

収入の要素価格弾力性の合計で競争度を判定

$H < 0$  ← 独占       $H < 1$  ← 独占的競争  
 $H = 1$  ← 完全競争

1983～88と1997～2002には「独占均衡」が棄却されるが、  
1991～96には棄却されない。  
3期間とも完全競争ではない。





# 生命保険業

Souma - Tsutsui(2005)

- 1996年の保険業法の改正 競争が向上。
- しかし十分でない。

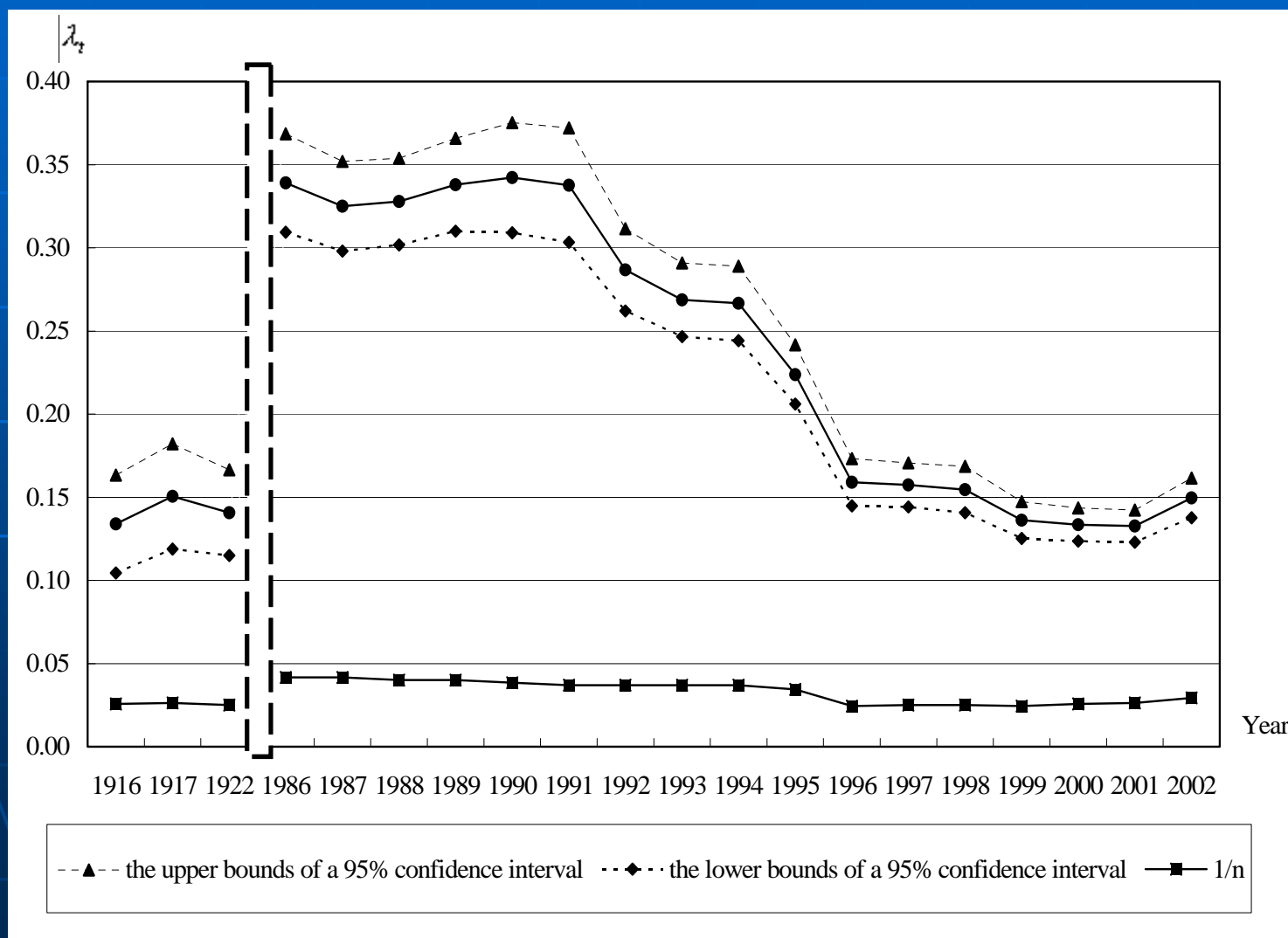
## 分析方法：寡占モデルの推定

= 1 ← 共同利潤最大化(一種の共謀)

=  $1/n$  ← クールノー寡占

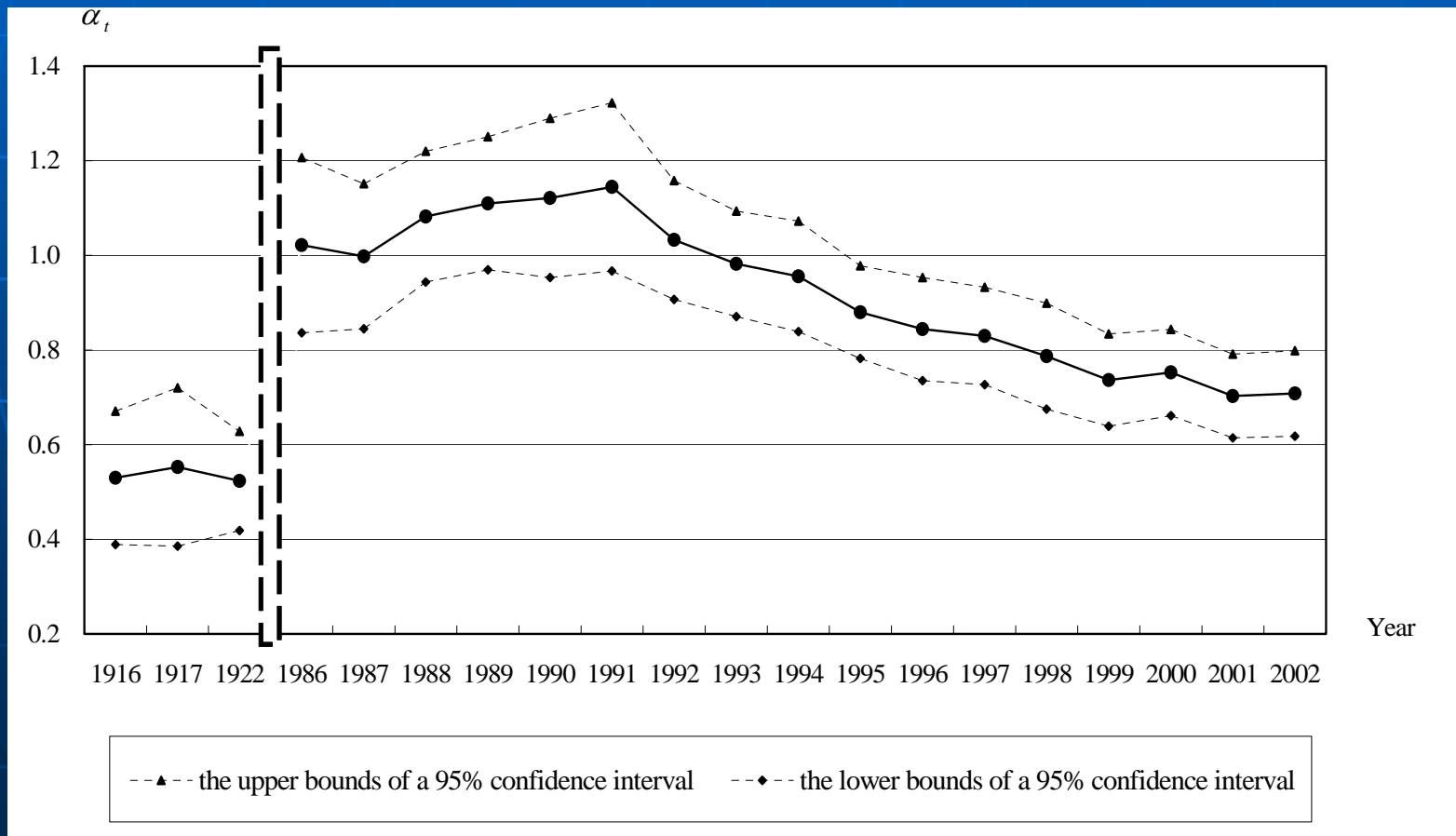
= 0 ← 完全競争

# 競争度の推定結果



# 共謀度の推定

1996年まで、「完全な共謀」(1)を棄却しない。



# 結論

銀行の競争度がもっとも高い

生命保険業の競争度が最も低い？

推定方法が違うので比較がしにくい

金融業に対する政策的なスタンスの違いも、  
競争度の違いをもたらした  
重要な要因

# 銀行業の内部はどうか？

地方銀行・信用金庫 などの 地方貸出市場  
都市銀行・信託銀行 の 全国市場

地方貸出市場は地域的に分断されている

- 分析方法 ● 県毎の平均金利が異なるか
- 分断を前提としたモデルが支持されるか
- 県別の貸出供給関数・需要関数の推定  
県民総生産、県の総預金が説明力を持つか？

## Kano-Tsutsui(2003)

1997年度

信金の貸出市場は県毎に分断

地銀の貸出市場は県毎には分断されていない

## Ishikawa-Tsutsui(2006)

1990～2002年度

地銀の貸出市場は県毎に分断

地銀の結果はmixed

しかし、たとえ県別でなくとも、  
数県の単位では分断されている

地域(県別)分断



好ましくない成果  
(高い貸出金利)

# 地方銀行は都市銀行よりも 競争度が低い

Uchida-Tsutsui (2005)

分析方法：寡占モデルの推定

= 1 ← 共同利潤最大化

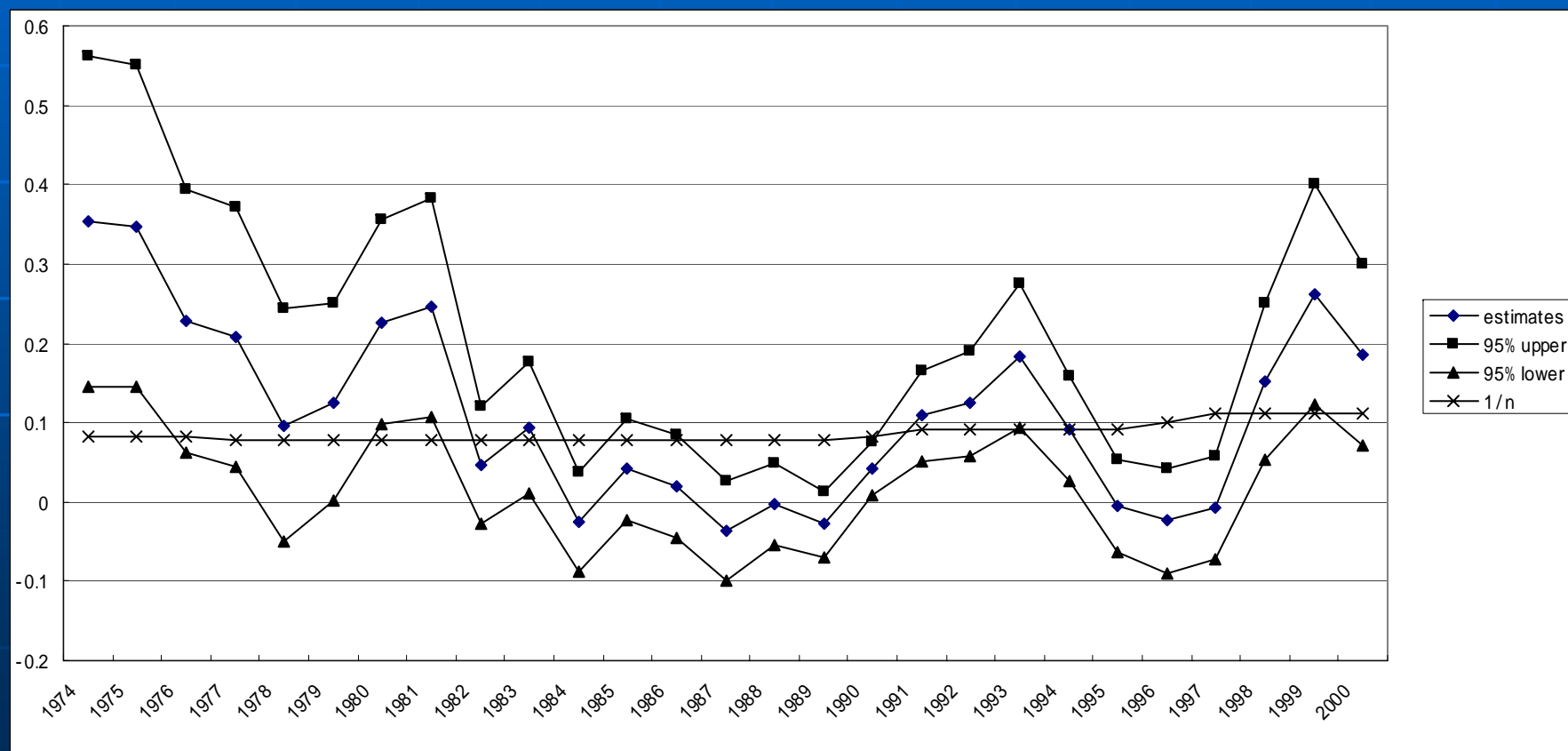
=  $1/n$  ← クールノー寡占

= 0 ← 完全競争



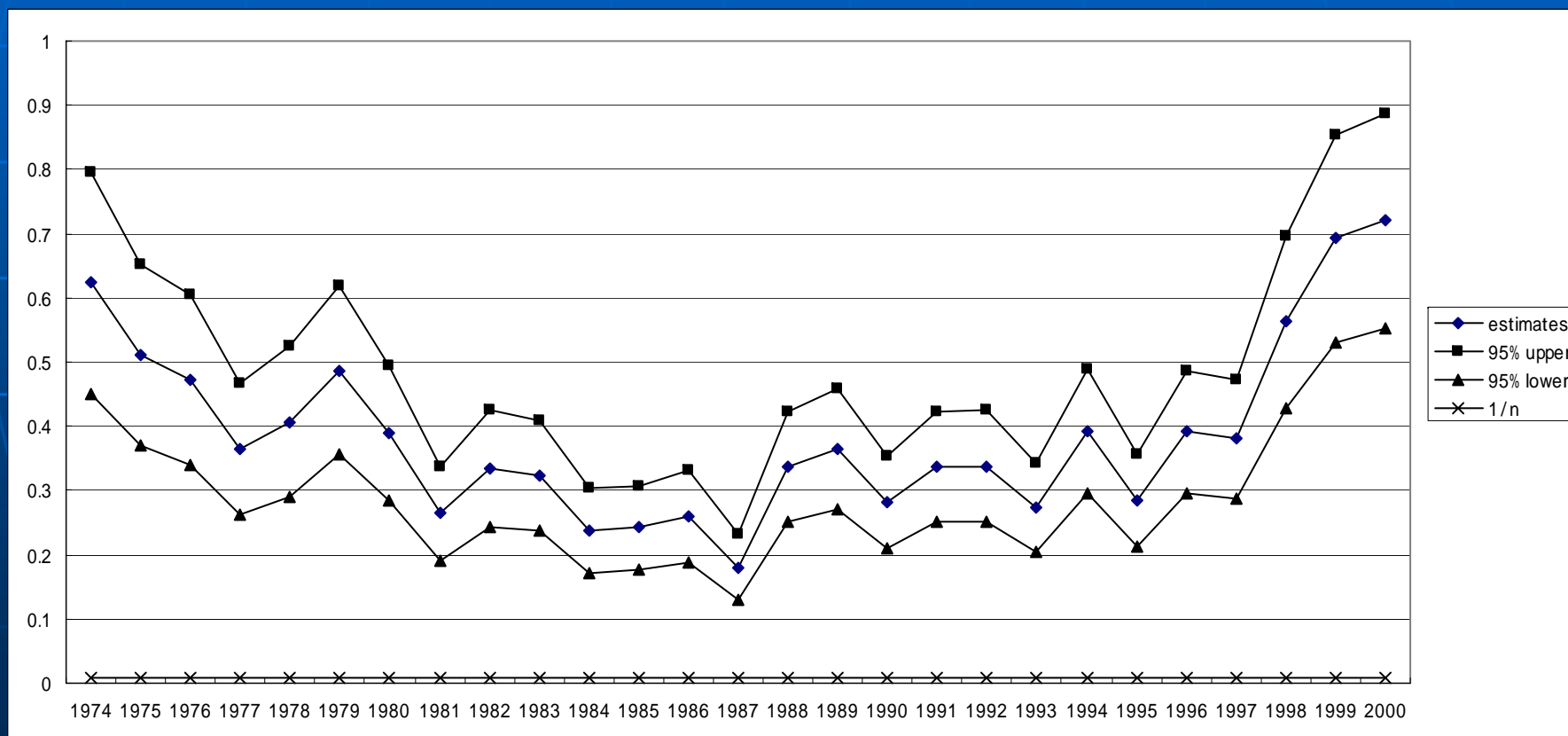
# 都市銀行の競争度

多くの年で完全競争(0)を棄却しない。



# 地方銀行の競争度

すべての年で完全競争(0)を棄却



市場集中度が高い県ほど  
貸出金利が高い

銀行数が少ない県の信金ほど



(競争が少なく?)



高い金利をつけている

Kano-Tsutsui (2003)

利潤についても同様(地銀)

Mori-Tsutsui(1989)

これに対し

**都市銀行については  
「効率性仮説」が成立**

筒井・佐竹・内田(2006)

**効率的な銀行ほど規模が大きくなっていく  
= 普通の競争的な市場**

# 分析方法

## 非効率性の推定

銀行の営業経費のデータで  
費用関数を推定



非効率性 → 次期の規模が小さい

1974年～2002年の都銀のパネルデータ

効率性仮説が成立

# 地方金融機関についても 効率性仮説が成立するか？

地銀の競争度が低い  
信金で、集中度が高いほど金利が高い  
といった結果が得られていることを考えると...

効率性仮説は成立しないかも??

地銀・信金についての分析が課題

# 結 論

地域分断



競争度の低下  
高い貸出金利

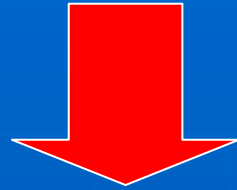


一地域に貸出先が限定

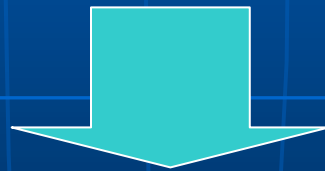


貸出のポートフォリオリスク増大

地元企業の不振による銀行倒産の可能性



地域を越えた相互参入の促進  
信金に対する営業地域規制の緩和



**効率性の確保**



これで終わりです。  
ご静聴ありがとうございました。